

会員の体験談より～片眼性の場合～

保育園で義眼が外れたことはなく、ずれてしまった時のために、保育園の先生に義眼用のスポイトを預けておきました。運動会、お遊戯会と何不自由なく過ごし、みんなと楽しい生活を過ごすことができて、保育園に行くのが楽しかったようです。他の園児や保護者の方たちに対しては片方の目だけでも、生活に支障がないので、無理に事情を話す必要がないのではと思います。

(北海道 Fさん)

義眼がはずれることはありませんでしたが、ずれた時のために義眼用のスポイトと、念のため貼るタイプの眼帯を園に預けておきました。

義眼の場合特に冬は眼やにが多く、乾燥でこびりついてしまうので、先生にも伝えておくといいと思います。

プールは幼稚園の水遊び程度でもゴーグルを使用していました。万が一はずれてしまった時のためです。

うちの場合は幼稚園入園の時に保護者に病気や義眼について説明しました。我が子にも病気の事を説明し、お友達に聞かれた時の答え方について話し合いました。

幼稚園くらいの年齢だと義眼などという偏見をもたずに、毎日の園生活を通して個性として受け止めてくれると思います。

(栃木県 Yさん)

我が子の場合、直前の化学療法のため、髪の毛がほとんどなく、周りの子がどんな反応をするか、気をもんでいました。先生から同じクラスの子どもが理解できそうな範囲で「病気で左の目は見えなくても、みんなと同じように何でもできるから心配しなくてもいいよ。髪の毛もすぐに伸びてくるからね」というような事を話してもらいました。最初の2日くらいは髪の毛のことも聞かれたようですが、3日目以降はほとんど聞かれなくなりました。

義眼のケアについては、義眼用のスポイト・洗浄液・洗浄綿を用意して園に預けておきました。

担任の先生だけでなく、他の先生にも義眼のことを伝えておくと、担任の先生がお休みの時でも安心です。

やがてこどもが自分で義眼を洗えるようになりますが、お友達の前では、驚かせてしまうからやらないように、義眼を水道で流してしまわないように、としっかり話しておきました。

ゴーグルは、広いプールだと万が一落とした時に探すのが大変だからの方がいい、と主治医の先生に言われたので、必ずさせるようにしています。

親も病気の事を忘れてしまうくらい元気いっぱい、運動が大好きで、跳び箱、鉄棒、平均台、登り棒などもみんなに負けないくらいがんばっています。

(長野県 Tさん)

園長先生に病気のこと、義眼洗浄のことなどをお話したところ、初めての事なので不安はあるが、お母さんと連絡をとりながら、子どもの気持ちを配慮しながら、サポートしていきたいと言ってもらい、ホッとしました。

こちらからは、義眼はほとんど外れることはなく、他のお子さんと変わりなく、園に通う事が出来ると園長先生に伝えました。園長先生は他のこどもたちとの園生活の中で、幼い子どもなりに、病気のことを受け入れ、もうひとつの眼を大事にできるようにお願いし、おっしゃってくださいました。

熱心な先生たちに感謝しています。子どもも親も初めての一步を踏み出せそうです。

(滋賀県 Tさん)



※義眼用のスポイト・・・義眼の取り外しやずれた時に使用するスポイト

「すくすく」網膜芽細胞腫の家族の会